



2018年度第2四半期決算説明会

(抜粋版)

2018年11月6日

積水化成品工業株式会社

(東証第1部 証券コード：4228)

2018年度上期 決算概要

(単位:億円)	2017年度 上期 実績 (A)	2018年度 上期 計画 (B)	2018年度 上期 実績 (C)	前期対比		計画対比	
				(C) - (A)	増減率	(C) - (B)	増減率
売上高	547.0	570.0	545.7	△ 1.3	100%	△ 24.3	96%
(国外売上高)	95.8	100.0	100.3	4.5	105%	0.3	100%
(対売上高比率)	17.5%	17.5%	18.4%				
営業利益	27.3	25.0	19.2	△ 8.1	70%	△ 5.8	77%
(営業利益率)	5.0%	4.4%	3.5%				
経常利益	27.3	24.0	19.5	△ 7.8	71%	△ 4.5	81%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	17.9	16.0	13.1	△ 4.8	73%	△ 2.9	82%

◆前年同期比、計画比共に減収、減益

- ・売上高は、工業分野で自動車関連を中心に伸長も、生活分野の低採算商品の売上減の影響があり、全体としては、ほぼ横ばい
- ・利益面では、前年度からの原材料価格の上昇を販売価格に転嫁するも、原材料価格のさらなる上昇の影響を完全には転嫁できず、マイナスの影響
- ・西日本豪雨など自然災害により、主に農水産関連など生活分野の収益にマイナス影響

2018年度上期 工業分野 業績

(単位:億円)	2017年度 上期 実績 (A)	2018年度 上期 計画 (B)	2018年度 上期 実績 (C)	前期対比		計画対比	
				(C) - (A)	増減率	(C) - (B)	増減率
売上高	225.5	242.0	234.8	9.3	104%	△ 7.2	97%
営業利益 (営業利益率)	17.1 7.6%	18.0 7.4%	13.8 5.9%	△ 3.3	81%	△ 4.2	77%
経常利益	14.8	14.0	11.0	△ 3.8	74%	△ 3.0	79%

売上げは伸長するも、家電・IT分野での「ピオセラン」の減少、戦略商材の拡販遅れで減益

- ◆ 家電・IT分野では、「ピオセラン」等を用いた液晶パネルなど搬送資材用途において、需要が一巡となった
- ◆ 「テクポリマー」は一部在庫調整の影響を受けるも光拡散用途や塗料用途において、堅調に推移
- ◆ 自動車分野では「ピオセラン」等を用いた部材用途においてグローバルに採用部位が拡大
- ◆ 医療・健康分野では、「テクノゲル」が電極用パッドやパック材などで好調に推移

2018年度上期 生活分野 業績

(単位:億円)	2017年度 上期 実績 (A)	2018年度 上期 計画 (B)	2018年度 上期 実績 (C)	前期対比		計画対比	
				(C) - (A)	増減率	(C) - (B)	増減率
売上高	321.5	328.0	310.9	△ 10.6	97%	△ 17.1	95%
営業利益 (営業利益率)	23.6 7.3%	21.0 6.4%	16.6 5.3%	△ 7.0	70%	△ 4.4	79%
経常利益	19.4	16.0	12.1	△ 7.3	62%	△ 3.9	76%

売上げ、利益ともに減少。売上面では、低採算商品の見直し。利益面では原燃料価格の上昇が影響

- ◆ 「エスレンシート」は、売上金額・数量面とも前年同期を上回った
- ◆ 「エスレンビーズ」は、売上金額は前年同期を上回ったが、数量は下回った
- ◆ 食品容器関連は電子レンジ加熱向け対応資材の需要が好調
- ◆ 建材・土木関連の需要は低調に推移
- ◆ 原燃料価格が昨年度下期より上昇を続け、末端製品の価格転嫁遅れ
- ◆ 農水産関連は7月以降の自然災害の影響を受けた

2018年度下期修正計画 概要

(単位:億円)	2017年度 年間 実績 (A)	2018年度 上期 実績	2018年度 下期 修正計画	2018年度年間			(参考) 2018年 年間 当初計画
				修正計画 (B)	前期対比 (B) - (A)	増減率	
売上高	1,121.0	545.7	604.3	1,150.0	29.0	103%	1,200
(国外売上高)	194.0	100.3	106.7	207.0	13.0	107%	212
(対売上高比率)	17.3%	18.4%	17.7%	18.0%			17.7%
営業利益	52.8	19.2	35.8	55.0	2.2	104%	68
(営業利益率)	4.7%	3.5%	5.9%	4.8%			5.7%
経常利益	51.5	19.5	34.5	54.0	2.5	105%	66
親会社株主に帰属する 当期純利益	34.4	13.1	22.8	36.0	1.6	105%	44
ROE	5.5%	—	—	5.4%			6.6%

- ◆ 年度ベースでも増収・増益を達成見込みであるものの、年度初予想からは下方修正
 - ・売上高は、工業分野で「ピオセラン」「テクポリマー」を中心に更なる伸長、生活分野も「機能性シート」を中心に挽回。
 - ・利益面では、原材料高騰の価格への転嫁に注力

2018年度下期修正計画 工業分野

(単位:億円)	2017年度 年間 実績 (A)	2018年度 上期 実績	2018年度 下期 修正計画	2018年度年間		
				修正計画 (B)	前期対比 (B) - (A)	増減率
売上高	460.0	234.8	247.2	482.0	22.0	105%
営業利益	31.7	13.8	24.2	38.0	6.3	120%
(営業利益率)	6.9%	5.9%	9.8%	7.9%		
経常利益	28.1	11.0	20.8	31.8	3.7	113%

「ピオセラン」の回復、「テクポリマー」の光学分野、塗料分野が伸長
利益面では、戦略商材を中心に高利益率製品が立ち上がり貢献

◆ グローバル 事業拡大

家電・IT分野の展開:中国、台湾

自動車分野の展開:アジア、欧米

医療・健康分野の展開:欧州・米州

◆ 新製品・新商品の早期刈取りの実施(ST-LAYER、エラスティル、テクヒーター)

◆ 既存製商品の顧客拡大(ピオセラン、テクポリマー、テクノゲル)

2018年度下期修正計画 生活分野

(単位:億円)	2017年度 年間 実績 (A)	2018年度 上期 実績	2018年度 下期 修正計画	2018年度年間		
				修正計画 (B)	前期対比 (B) - (A)	増減率
売上高	661.3	310.9	357.1	668.0	6.7	101%
営業利益	44.1	16.6	26.9	43.5	△ 0.6	99%
(営業利益率)	6.7%	5.3%	7.5%	6.5%		
経常利益	35.2	12.1	23.1	35.2	0.0	100%

機能性シートが需要期に入り伸長、価格改定によるスプレッド確保で利益率アップ

- ◆ ビーズ、シート既存顧客へのインスタシェアアップと価格対応の推進
- ◆ 機能性食品容器の拡大(レンジアップ、冷凍対応容器)
- ◆ 農産・水産関連は国内での確実な取込みに加え、輸出入ビジネスへの展開
- ◆ 加工ビジネスは国内地域代表会社およびアジアでの展開
- ◆ 省エネ・生産性向上活動及び広域物流改革の仕上げ

設備投資の状況

(単位:億円)	2017年度 年間	2018年度 上期	2018年度 下期	2018年度 年間	前年度	年間	当初計画
	実績	実績	修正計画	修正計画	対比	当初計画	対比
設備投資額	78	45	39	84	6	84	0
減価償却費	41	21	27	48	7	49	△ 1

【2018年度下期 主な計画設備】

台湾加工場建設
中部倉庫建設
テクポリマー能力増強

【参考:2018年度上期 主な完工設備】

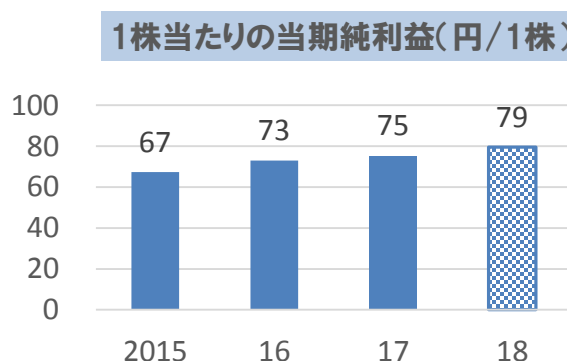
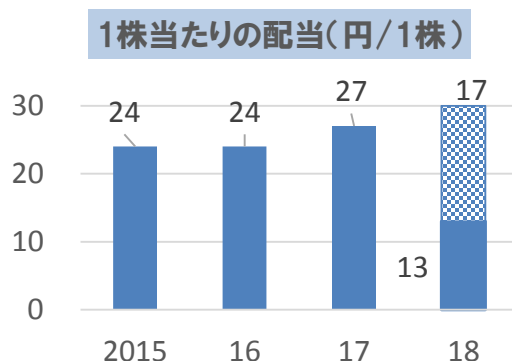
タイ第2拠点
群馬加工場建設
機能性ビーズプラント本製化
複合成型機

2018年度 配当について

(単位:円/株)	2017年度 年間 実績	2018年度			
		中間実績	期末(予)	年間(予)	前年対比
1株当たりの配当額	27.0	13.0	17.0	30.0	3.0
連結配当性向	35.8%	37.8%			

連結業績の動向に応じ、かつ配当の安定性を勘案した株主への利益還元を基本方針とします

- ◆ 連結配当性向30%~40%をメドとして実施予定
- ◆ 自社株式取得は定期的にかつ、継続して実施予定



ご静聴ありがとうございました

★内容に関するお問合せは…

CSR・広報部 (03)3347-9711 までお願いいたします。

★当社のホームページもあわせてご覧ください。

アドレスは <http://www.sekisuiplastics.co.jp/>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。